

京都大学若手人材海外派遣事業 ジョン万プログラム
研究者派遣プログラム

成果報告書

提出日：平成 26 年 4 月 23 日

1. 渡航者			
氏名	小野田雄介	採択年度	平成 25 年度
部局	農学研究科	電話	
職名	助教	メール	
研究課題名	葉の光合成と耐久性のトレードオフのメカニズムに関する研究		
海外渡航期間	平成 25 年 9 月 22 日～平成 25 年 12 月 21 日		
2. 渡航に関する情報			
渡航先	国名：オーストラリア 大学等研究機関名：マッコーリー大学 研究室名等：Wright 研究室（機能生態学） 受入研究者名：Dr. Ian Wright		
渡航期間中の出張 （渡航期間中に一時帰国や学会参加等の目的で短期の出張があった場合、その目的、行き先、期間を報告して下さい。） ※複数回に渡る場合、適宜行を追加して下さい。	出張先：University of Western Sydney 目的：大規模 CO ₂ 暴露実験（Euc-FACE）の見学と Ellsworth 教授とのミーティング 期間：平成 25 年 11 月 15 日		
3. ジョン万プログラムによる成果			
以下の項目について、渡航期間中の成果、または今後見込まれる成果を具体的にお書き下さい。ページ数については増加してもかまいません。			
国際共著論文の執筆 （論文の題名、雑誌名、共著者名、刊行予定等）	本研究は、葉の光合成と耐久性のトレードオフのメカニズムを、既存データのメタ解析によって明らかにするものであり、受入研究者の Wright 博士や複数の共同研究者と連携し、解析を進めている。この結果は、2014 年中にまとめて、一流誌に投稿する予定である。		

<p>更なる外部資金獲得に繋がる国際共同研究の立上げ／実施</p> <p>(国際共同研究の内容、実施計画、応募予定の外部研究資金等)</p>	<p>共同研究を引き続き継続するために、日本学術振興会の外国人招へい研究者制度に申請を行い、Wright 博士を招へいする手続きを進めている。</p>
<p>国際研究ネットワークの新規構築／深化</p> <p>(参加した学会やその他の学術・交流組織、そこから構築／深化した研究ネットワークの内容等)</p>	<p>派遣国のオーストラリアだけでなく、オランダ、エストニア、日本などの複数の国の研究者と連携し、プロジェクトを進めている。メールのやりとり等により、研究者間のデータ共有や、共同解析を進めている。</p> <p>滞在先で知り合った Kunstler 博士から共同研究の提案があり、こちらのデータを提供し、共同研究を開始した。</p>
<p>在外研究経験による研鑽</p> <p>(渡航先機関で得た研究の展開方法、研究室の運営方法、教育方針・人材育成方法等)</p>	<p>Wright 博士は多忙であったが、毎週木曜日に 1 時間の面談時間を確保していただき、共同研究の進捗について議論し、研究課題を着実に進めることができた。また彼の研究室に滞在することにより、これまでオープンになっていなかったデータも提供いただき、解析できるデータ量が大幅に増加した。Wright 博士からは、彼のポスドクや学生の研究について助言することを求められ、個別に研究議論を行った。</p> <p>また滞在先の Macquarie 大学では、Wright 博士のグループだけでなく、Westoby 教授のグループ (Comparative Ecology) の研究セミナーや論ゼミにも毎週参加し、活発な研究議論を行い、お互いに多くの刺激を受けた。</p>
<p>フィールド研究の進展</p> <p>(渡航先国で実施した実地調査や文献調査等の内容)</p>	<p>降水量条件や土壌条件が異なる 4 カ所の森林から、総計 35 種ほどの木本種の葉を採取した。これらの木本種の葉の窒素分配の内訳を明らかにするために、いくつかの形質測定を行った。詳細な分析は、設備の都合上、滞在先では出来なかったため、サンプルを持ち帰り、帰国後、分析を行っている。</p>